

名古屋市保健所 感染症対策・調査センターの活動（業務課）

（令和４年度）



（衛生研究所内に感染症対策・調査センターを併設）

名古屋市保健所 感染症対策・調査センター

発刊にあたって

感染症対策・調査センターは、守山区下志段味の自然豊かな環境に囲まれています。着任当初から朝は「ウグイス」のさえずりに癒され、猛暑が続いた今夏、都市部で多いクマゼミではなく「アブラゼミ」の鳴き声がほんの少しですが暑さを柔らげてくれました。裏山に足を踏み入れてみると、出くわすコクワガタなどさらなる自然を感じ取れる、そんな癒しの空間です。皆様も一度お越しになられてはいかがでしょうか？

さて、世間では本年5月に新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類になり、WITHコロナで培われた感染防止対策が活用され、ようやく社会活動が本格化してまいりました。令和2年1月に国内で発生してから3年以上の長きにわたり行政は様々な対策を行ってまいりました。休日返上でコロナ対策に携わった方々におかれましては敬意を表しますとともに、当時の立場から感謝を申し上げます。保健所は消防・警察と違い365日24時間オープンしている組織体制でない中、たくさんの支援をいただき何とか乗り切ってまいりました。ここでしっかりと様々な角度から検証を行い、次のパンデミックを起こす感染症への対応に向けた組織がしっかりと構築されることを願ってやみません。

このような中、当センターでは感染症患者の移送業務、検査検体の搬送業務、感染症媒介昆虫等の生息調査、感染症予防を推進する啓発事業等を実施しています。ここに令和4年度の活動をまとめましたので、業務の参考にしていただければ幸いです。コロナ対策により縮小されていた業務が徐々に再開され、生活衛生センター時代に好評でした生活衛生セミナーをリニューアルした「公衆衛生セミナー*」におきましては、時代に合わせたYouTube配信という形で初めて行いました。今年度は、外部講師を加えさらに充実した形で実施してまいりますのでご期待いただければと思います。

さいごに、感染症に関する業務を通じまして、市民の方々の健康を安全に守る使命を果たすため、当所職員一丸となって取り組んでまいりますので、今後とも関係各位の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに発刊の言葉といたします。

令和5年10月

名古屋市保健所
感染症対策・調査センター所長
西 口 淳

* 公衆衛生セミナー：



目 次

I 概要

1	機構及び分担業務	1
2	職員	1
3	沿革	2
4	施設と設備	3

II 事業結果（令和4年度）

1	はじめに	5
2	感染症対策事業	6
	（1）感染症患者の移送、消毒	6
	（2）健康調査及び疫学調査	6
	（3）検体等の搬送	7
	（4）浸水時の消毒等	9
	（5）設備機器の維持管理	9
3	感染症媒介昆虫等対策事業	11
	（1）感染症を媒介する衛生害虫等の調査	11
	（2）緊急駆除及び特定空家等に対する応急措置	12
	（3）集約区保健センターへの技術的協力	12
4	感染症及び衛生害虫等に関する普及啓発事業 ^{※1}	13
	（1）普及啓発活動	13
	（2）普及啓発物品の配布	15
	（3）普及啓発資材の整備	15
	（4）広報活動	15

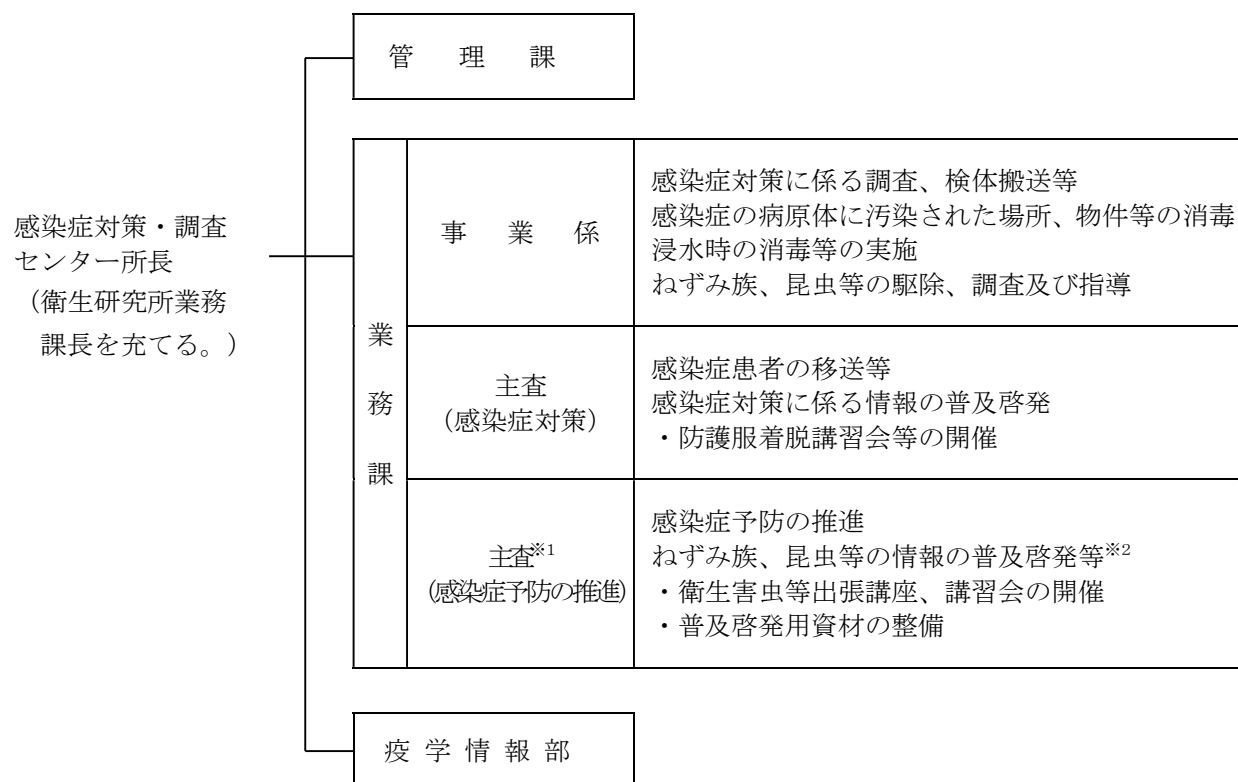
Ⅲ 資料編（令和４年度）

1	学会派遣、研究発表及び講師派遣等	17
	(1) 学会派遣、研究発表、表彰	17
	(2) 講師派遣	17
	(3) 感染症合同訓練	17
	(4) 体験学習、学生実習等	17
	(5) 報道協力	17
2	広報指導用資材一覧表	18
3	フィールドレポート	21
	(1) 蚊生息状況調査結果	21
	(2) マダニ生息状況調査結果	22
	(3) スズメバチ生息状況調査結果	23
4	調査研究結果	24
	(1) 蚊生息状況調査	24
	(2) マダニ生息状況調査	27
	(3) スズメバチ生息状況調査	30

※1 衛生研究所業務課としての業務を含む。

I 概要

1 機構及び分担業務



※1 感染症対策室主査が兼務

※2 衛生研究所業務課としての業務

2 職 員 (業 務 課)

(令和5年4月1日現在)

補 職 名	技 術 職 員							計
	課 長	係 長	主 査	技 師	看 護 師	運 転 士	業 務 技 師	
課・係・主査								
業 務 課	1							1
事 業 係		1		4	1	1	7	14
主査 (感染症対策)			1					1
主査 (感染症予防の推進)			1					1
計	1	1	2	4	1	1	7	17

3 沿 革

昭和 15 年 5 月	防疫所業務開始（移送、消毒、医学的検査等）
昭和 20 年 3 月	庁舎消失
昭和 22 年 9 月	衛生班、全市で 40 ヶ班配置
昭和 23 年 4 月	庁舎復旧工事竣工
昭和 33 年 11 月	医学的検査等の業務を保健所へ移管
昭和 34 年 9 月	伊勢湾台風により庁舎倒壊
昭和 36 年 2 月	庁舎復旧工事竣工
昭和 39 年 7 月	衛生班活動ブロック体制開始
昭和 44 年 3 月	庁舎増築工事竣工
昭和 44 年 8 月	防疫センター発足、機構改革
昭和 44 年 9 月	移送、消毒、そ昆虫駆除業務開始
昭和 46 年 9 月	重症結核患者対策開始
昭和 47 年 7 月	タツミノー養殖開始
昭和 48 年 1 月	公共下水道内ネズミ駆除活動開始
昭和 51 年 3 月	感染症サーベイランス事業に参加
昭和 53 年 10 月	河川水等サーベイランス事業に着手
昭和 61 年 4 月	昆虫とのふれあい事業開始
昭和 61 年 8 月	ファール号導入
平成 2 年 7 月	高周波誘電加熱装置導入
平成 4 年 4 月	苦情相談窓口設置
	昆虫及び地域環境理解のための啓発事業の実施
平成 7 年 10 月	生活衛生センターの発足
	庁舎改築及び機構改革（タツミノー養殖廃止）
	普及啓発活動の充実（展示室の開設）
平成 11 年 4 月	計画駆除の廃止に伴う機構改革
	検疫通報に基づく健康調査の実施
	居住環境に起因するアレルギーに係る事業開始
平成 11 年 7 月	移送車 1 台更新
平成 15 年 3 月	高周波誘電加熱装置及び河川水等サーベイランス事業廃止
平成 16 年 3 月	移送車 1 台増車により感染症患者移送業務充実
平成 18 年 6 月	スズメバチ駆除業務一部民間移行
平成 18 年 8 月	ファール号更新
平成 20 年 4 月	スズメバチ駆除業務の完全民間移行（緊急時を除く）
平成 21 年 3 月	依頼消毒・依頼昆虫駆除業務廃止
平成 24 年 3 月	展示室「ムーシウム」閉館
平成 25 年 3 月	昆虫とのふれあい事業及び走る昆虫教室「ファール号」の廃止
平成 25 年 4 月	衛生害虫出張講座「おじゃま虫キャラバン」の開始
平成 26 年 4 月	機構改革に伴いアレルギー対策及び苦情相談業務の廃止
令和 元年 8 月	移送車 1 台更新
令和 2 年 2 月	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による患者移送業務等の開始
令和 2 年 4 月	守山区大字下志段味字穴ケ洞地区へ移転
	衛生研究所内に感染症対策・調査センターを併設
令和 2 年 6 月	新型コロナウイルス感染症患者移送業務の一部委託化に伴い委託業者の患者移送車両の消毒業務開始

4 施設と設備

〈所在地〉

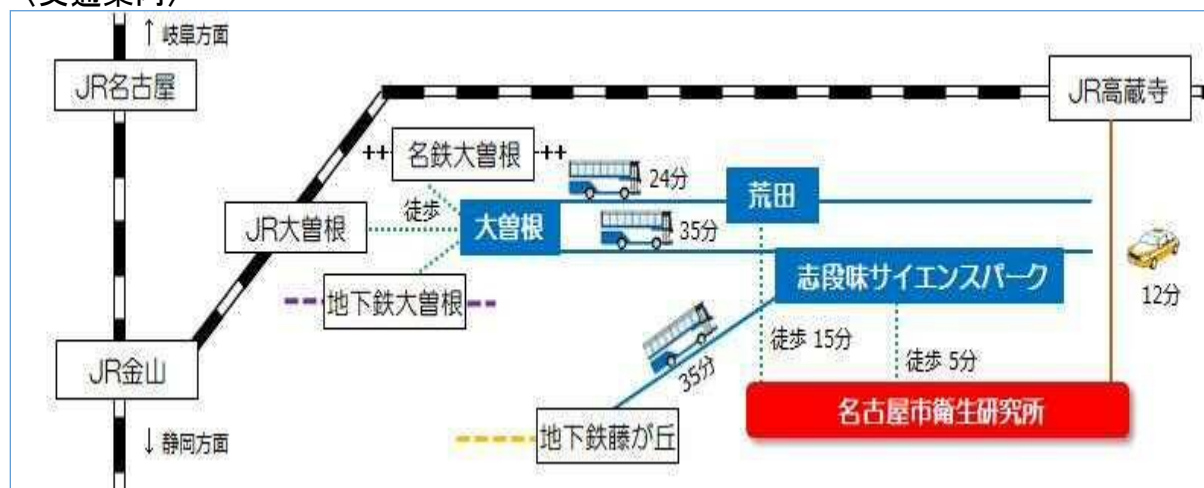
〒463-8585

名古屋市守山区桜坂四丁目 207 番地



衛生研究所内に感染症対策・調査センターを併設

〈交通案内〉



◆ 守山スマートICより 車で 約 5分
◆ JR 高蔵寺駅より 車で 約 12分

◆ JR・名鉄・地下鉄大曽根駅より

バス【ゆとりとライン】

● 志段味サイエンスパーク経由 志段味交通広場行き乗車
志段味サイエンスパーク 下車 徒歩 約 5分

● 小幡緑地経由 志段味交通広場行きまたは高蔵寺行き乗車
荒田 下車 徒歩 約 15分

◆ 地下鉄藤が丘駅より

バス【藤丘 12 系統】

● 四軒家経由 東谷山フルーツパーク行き乗車
志段味サイエンスパーク 下車 徒歩 約 5分

〈主な施設など〉

試験検査室・飼育室

試験検査室では調査で捕獲した検体の同定を行い、飼育室では普及啓発事業で使用する昆虫等の飼育を行っています。



試験検査室



飼育室

車両

患者移送車……………2 台

薬剤散布車……………3 台

その他車両……………6 台



患者移送車



薬剤散布車

その他

簡易式アイソレーター、手押し式動力噴霧器等



簡易式アイソレーター



手押し式動力噴霧器

Ⅱ 事業結果（令和 4 年度）

1 はじめに

感染症対策・調査センターの業務は、「感染症対策事業」、「感染症媒介昆虫等対策事業」及び「感染症及び衛生害虫等に関する普及啓発事業」を3本柱として各種の事業を展開し、市民の健康と暮らしを守り、健康的で快適な生活環境づくりを図っている。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、前年度と同様に様々な社会活動が制約を受ける状況となった。本市業務においても、新型コロナウイルス感染症に係る業務継続計画が発動され、当センターでは普及啓発事業の通常業務を中止することになった。このような状況下、当センターでは前年度に引続き、新型コロナウイルス感染症の患者移送を担うとともに、委託患者移送車両の消毒等新型コロナウイルス感染症の業務対応に追われる一年となった(図1)。

以下では令和4年度に行った事業結果を報告する。

陽性者数(人)

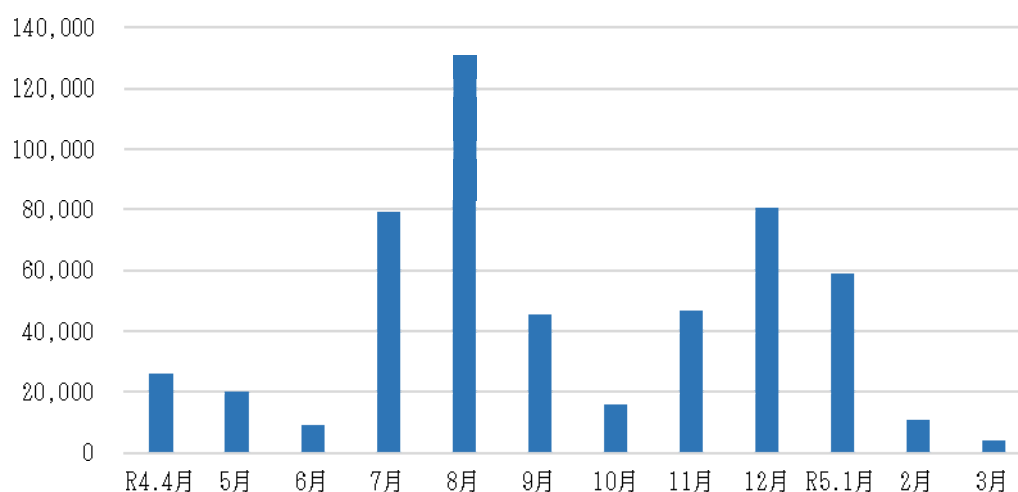


図1 令和4年度 名古屋市新規陽性者数(月別)

2 感染症対策事業

(1) 感染症患者の移送、消毒

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）に基づく、令和4年度の感染症患者の移送は84件であり、令和3年度より224件減少した。患者の内訳は結核患者56人、新型コロナウイルス感染症の患者が28人であった。新型コロナウイルス感染症患者の移送件数は、車椅子及びストレッチャーを使用した移送が可能な業者へ一部委託化したことにより、令和3年度より177件減少した。

また、「感染症法」に基づく消毒の実施はなかった。

その他、新型コロナウイルス感染症患者移送業務の委託業者の患者移送車両（タクシー）の消毒を2,965件実施した（表1、表2、表3、表4）。



感染症患者移送（結核）



患者移送車両（タクシー）の消毒

(2) 健康調査及び疫学調査

検疫所（空港検疫を含む。）からの菌検査通報に基づき健康調査を実施しているが、令和4年度はなかった。平成18年度以降、通報に基づく健康調査の実績はない（表1）。

表1 感染症患者移送及び消毒等

令和4年度

感染症患者移送(人)							
一類	二 類						新型コロナウイルス感染症 (H5N1)(H7N9) 鳥インフルエンザ
	急性灰白髄炎	結核	ジフテリア	呼吸器症候群 重症急性	中東呼吸器症候群		
-	-	56	-	-	-	-	28
感染症関係消毒 (件)							-
保健センターからの疫学調査依頼 (件)							-
検疫所からの通報に基づく健康調査 (件)							-



表 2 結核患者移送件数（依頼保健センター別）

令和 4 年度

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
3	3	7	1	11	2	－	3	1	4	4	6	4	2	4	1	56
(6)	(4)	(9)	(8)	(14)	(4)	(6)	(4)	(2)	(7)	(6)	(10)	(4)	(6)	(4)	(9)	(103)

() は令和 3 年度の件数

表 3 新型コロナウイルス感染症患者移送件数（依頼保健センター他別）

令和 4 年度

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	本庁	計
－	－	－	1	－	2	1	－	－	－	2	－	3	3	1	7	8	28
(11)	(5)	(8)	(5)	(3)	(6)	(6)	(4)	(6)	(20)	(9)	(4)	(20)	(6)	(10)	(2)	(80)	(205)

() は令和 3 年度の件数

表 4 患者移送業務委託車両消毒件数（月別）

令和 4 年度

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
239	213	127	295	472	366	153	195	326	379	139	61	2,965
(161)	(238)	(201)	(183)	(329)	(436)	(67)	(15)	(27)	(298)	(573)	(369)	(2,897)

() は令和 3 年度の件数

(3) 検体等の搬送

ア 結核菌分子疫学検査菌株の搬送

結核の感染経路追跡のため、分子疫学検査菌株を医療機関から衛生研究所へ定期的に搬送しており、令和 4 年度は 91 菌株を搬送した。

イ HIV 抗体検査検体の搬送

保健センター所長からの依頼に基づき、HIV 抗体検査検体を保健センターから衛生研究所へ 1,981 検体搬送した（表 5）。

表 5 HIV 抗体検査検体搬送数（依頼保健センター別）

令和 4 年度

千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
66	181	90	171	4	5	146	159	184	171	105	129	126	116	208	120	1,981
(－)	(95)	(51)	(84)	(－)	(1)	(91)	(107)	(126)	(87)	(47)	(52)	(76)	(74)	(57)	(50)	(998)

() は令和 3 年度の件数

ウ 感染症発生動向調査検体の搬送

(ア) 病原体定点等検体の搬送

感染症の流行を未然に予知し、早期かつ適切な治療と効果的な予防対策を講じることを目的とする「名古屋市感染症予防対策事業実施要綱」に基づき、市内病原体定点（8 定点）から毎週 1 回、検体回収を行った。また、平成 28 年度以降は、インフルエンザを対象とする病原体定点（指定提出機関）からの検体回収も併せて行っている。

令和 4 年度の検体回収数は 82 件（指定提出機関からの検体回収数は 0 件）で、定点別では愛知医療センター名古屋第二病院が最も多かった。また、検体別では咽頭ぬぐい液が最も多く、次いで便、髄液の順であった（表 6）。

表 6 病原体定点等検体搬送数

令和 4 年度

		東 部 医 療 セ ン タ ー	西 部 医 療 セ ン タ ー	名 古 屋 市 立 大 学 病 院	中 京 病 院	名 古 屋 掖 済 会 病 院	愛 知 医 療 セ ン タ ー 名 古 屋 第 二 病 院	く つ な こ ど も ク リ ニ ック	ま じ ま 眼 科	合 計
検 体 数	咽頭ぬぐい液	1 (-)	5 (-)	5 (-)	1 (-)	- (-)	12 (-)	4 (-)	-	28 (-)
	便	-	5	4	-	-	8	-	-	17
	髄 液	-	2	1	-	-	10	-	-	13
	尿	-	3	2	-	-	6	-	-	11
	結膜ぬぐい液	-	-	-	-	-	-	-	6	6
	血 液	-	3	1	1	-	-	-	-	5
	水 泡	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	その他	-	-	-	1	-	-	-	-	1
	合 計	1	19	13	3	-	36	4	6	82

() はインフルエンザ様疾患検体数の再掲

(イ) その他検体等の搬送

令和 3 年 4 月 1 日付で施行された「名古屋市検体等搬送実施規程」に基づき、医療機関等から提供を受けた検体及び菌株のうち保健センター所長から依頼のあった 245 検体（菌株含む。）を保健センター等から衛生研究所へ搬送した（表 7、表 8）。

表 7 その他検体等搬送数（依頼保健センター別）

令和 4 年度

千 種	東	北	西	中 村	中	昭 和	瑞 穂	熱 田	中 川	港	南	守 山	緑	名 東	天 白	計
-	-	7	39	49	22	34	11	-	22	16	25	-	9	4	7	245
(2)	(-)	(8)	(10)	(8)	(19)	(23)	(5)	(5)	(17)	(22)	(27)	(-)	(4)	(-)	(15)	(165)

() は令和 3 年度の件数

表 8 その他検体等搬送数（感染症名※及び検体等種別）

令和 4 年度

		性カル 腸内バ 菌細ペ 感菌ネ 症菌ム 耐細	腸 管出 血性 大腸 菌感 染症	感 染性 胃腸 炎	ダ ニ 媒 介 性 感 染 症 ・ つ つ が 虫 病	急 性 肝 炎	そ の 他	合 計
検 体 等 数	血 液	5	－	－	19	11	17	52
	髄 液	－	－	－	1	－	3	4
	咽頭ぬぐい 液	－	－	－	1	3	11	15
	便	－	20	29	－	3	5	57
	尿	－	－	－	2	6	4	12
	菌 株	54	17	－	－	－	2	73
	その他	5	1	－	6	6	14	32
	合 計	64	38	29	29	29	56	245

※ 感染症名ごとの検体等数には疑似症を含む。

エ その他

保健センター所長から依頼があれば腸管出血性大腸菌のベロ毒素産生性検査検体を医療機関から衛生研究所へ搬送するが、令和 4 年度の搬送はなかった。検査が可能である民間検査機関の増加により、平成 20 年度以降の搬送実績はない。

(4) 浸水時の消毒等

「浸水対策実施要綱」に基づき、被災地域の公共的な場所について消毒及びねずみ族、昆虫等の駆除を行っているが、令和 4 年度は公共的な場所の消毒等の実施はなかった（表 9）。

(5) 設備機器の維持管理

動力噴霧器の設備点検を毎月 1 回実施し、感染症や浸水被害発生時の迅速な出動に備えた。



動力噴霧器の点検作業

表 9 浸水被害状況及び環境防疫活動状況

令和 4 年度

	浸水被害状況（戸数）			消毒実施 面積 (m ²)	オルソ系 乳剤 使用量 (L)	クレゾール 石けん液 使用量 (L)	延活動班 件数	延活動 人数
	床上	床下	計					
千種	1	－	1	－	－	－	－	－
東	－	－	－	－	－	－	－	－
北	－	－	－	－	－	－	－	－
西	－	－	－	－	－	－	－	－
中村	－	－	－	－	－	－	－	－
中	－	－	－	－	－	－	－	－
昭和	－	－	－	－	－	－	－	－
瑞穂	－	－	－	－	－	－	－	－
熱田	－	－	－	－	－	－	－	－
中川	－	－	－	－	－	－	－	－
港	－	－	－	－	－	－	－	－
南	－	－	－	－	－	－	－	－
守山	－	2	2	－	－	－	－	－
緑	－	－	－	－	－	－	－	－
名東	－	－	－	－	－	－	－	－
天白	－	－	－	－	－	－	－	－
計	1	2	3	－	－	－	－	－

3 感染症媒介昆虫等対策事業

(1) 感染症を媒介する衛生害虫等の調査

ア 蚊生息状況調査

以下のデングウイルス等保有状況調査を始めとして 139 件の調査を実施した（表 10）。

(ア) デングウイルス等保有状況調査

環境薬務課からの依頼に基づき、感染症媒介蚊のウイルス保有状況を把握するため、市内の公園等 6 地点において、5 月から 10 月にかけて月 2 回 CO₂トラップを 24 時間設置し、捕集した蚊成虫を衛生研究所に搬入した。同じく、公園等 2 地点において 5 月から 10 月にかけて月 1 回 8 分間人囃法を実施し、捕集した蚊成虫を衛生研究所に搬入した。

(イ) 薬剤感受性調査

環境薬務課からの依頼に基づき、感染症媒介蚊幼虫の薬剤感受性を把握するため、市内 1 地点において、7 月から 9 月にかけて週 1 回オビトラップにより採集した卵を衛生研究所に搬入した。

(ウ) 平常時における生息状況調査

市内の公園等 2 地点において、4 月から 11 月にかけて週 1 回 8 分間人囃法による生息状況調査を実施した。また、衛生研究所敷地内にて 4 月から 11 月にかけて週 1 回オビトラップによる産卵調査を行った（Ⅲ資料編 21 ページ「3 フィールドレポート (1) 蚊生息状況調査結果」及び 24 ページ「4 調査研究結果 (1) 蚊の生息状況調査」）。



CO₂トラップ

クーラーバッグにドライアイスを入れて蚊成虫を誘引し吸引ファンで捕集する。



オビトラップ

水を入れた黒色の小容器に産卵場所となる厚紙を設置し卵を採集する。



8 分間人囃法

調査場所に 1 人が 8 分間立ち、吸血のため飛来する蚊成虫を捕虫網で捕獲する。

イ マダニ生息状況調査

市内の公園等 5 地点において、4 月から 3 月にかけて旗ずり法による生息状況調査を 59 件実施した（表 10、Ⅲ資料編 22 ページ「3 フィールドレポート (2) マダニ生息状況調査結果」及び 27 ページ「4 調査研究結果 (2) マダニ生息状況調査」）。



旗ずり法

ウ スズメバチ生息状況調査

以下の生息状況調査を始めとして 97 件の調査を実施した。

(ア) 生息状況調査

a 季節変動調査定点

市内の公園等 3 地点において、4 月から 11 月にかけて誘引トラップによる生息状況調査を 64 件実施した。また、調査地点において、営巣調査を 5 件実施した（表 10、Ⅲ

資料編 23 ページ「3 フィールドレポート (3) スズメバチ生息状況調査結果」及び 30 ページ「4 調査研究結果 (3) スズメバチ生息状況調査」）。

b 分布調査定点

市内の公園等 12 地点において、8 月から 9 月にかけて誘引トラップによる生息状況調査を 10 件実施した（表 10、Ⅲ資料編 23 ページ「3 フィールドレポート (3) スズメバチ生息状況調査結果」及び 30 ページ「4 調査研究結果 (3) スズメバチ生息状況調査」）。

(イ) 越冬スズメバチ生息状況調査

市内の公園等 2 地点において、1 月から 3 月にかけて朽ち木中などで越冬する新女王バチの生息状況調査を 8 件実施した。（表 10、Ⅲ資料編 23 ページ「3 フィールドレポート (3) スズメバチ生息状況調査結果」）

(ウ) 木酢液による忌避効果検証調査

市内の公園等 2 地点において、9 月から 11 月にかけて誘引トラップを利用したスズメバチに対する木酢液の忌避効果検証調査を 14 件実施した（表 10）。



誘引トラップ

(2) 緊急駆除及び特定空家等に対する応急措置

保健センターからの依頼によるネズミ昆虫等業務実施要綱第 8 条に規定される緊急駆除及び名古屋市空家等対策の推進に関する条例第 10 条に規定される応急措置の実施はなかった（表 10）。

(3) 集約区保健センターへの技術的協力

保健センターからの依頼による技術的協力として、蚊媒介感染症の重点サーベイランス地点における媒介蚊の発生源調査を 4 件行った（表 10）。

表 10 調査活動、緊急駆除及び応急措置、技術的協力件数

令和 4 年度

	調査活動	緊急駆除	応急措置	技術的協力
ネズミ	－	－	－	－
ゴキブリ	－	－	－	－
ダニ(マダニを除く)	－	－	－	－
カ	139	－	－	4
スズメバチ	101	－	－	－
セアカゴケグモ	－	－	－	－
マダニ	59	－	－	－
ハエ	－	－	－	－
計	299	－	－	4

4 感染症及び衛生害虫等に関する普及啓発事業

(1) 普及啓発活動

ア 感染症対策に係る訓練

保健センターからの依頼により防護服着脱訓練を1回行い、14名の参加があった。新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため実施回数は少なかった。また、各機関と合同で行う新型インフルエンザ実地訓練は、新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため実施しなかった。



防護服着脱訓練

イ 衛生害虫等出張講座、講習会及び研修会等

感染症の予防及び感染症を媒介する衛生害虫等に関する対策等の普及啓発活動として出張講座を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため実施しなかった（表 11）。

各団体からの依頼により講習会を4回実施した。消防学校の学生に対して感染防止と消毒に関する講習を通して感染症に対する知識を深めてもらい、コロナ禍のため人が集まって講習会を開催することが難しい団体にはwebを活用した新型コロナウイルス感染症に関する講習を行った。また、公益財団法人愛知県ペストコントロール協会の依頼によりマダニに関する講習会を行った。

新型コロナウイルス感染症の感染防止の知識を啓発するため、新型コロナウイルス感染症患者移送委託業者等を対象とした研修会を1回実施し、5名の参加があった（表 11）。

その他、樹脂標本等の普及啓発資材貸出が1回あった（表 11）。

ウ 公衆衛生セミナー

新たに名古屋市衛生研究所 YouTube チャンネルを立ち上げ、合計5回 Live 配信を行った（表 12）。新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため令和4年度はwebを活用して開催した。

表 11 普及啓発活動月別実施回数と参加人数

令和 4 年度

月	衛生害虫等出張講座		講習会等		公衆衛生セミナー		その他※ ²		計	
	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数※ ¹	回数	参加人数	回数	参加人数
4 月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 月	-	-	-	-	-	-	1	5	1	5
6 月	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
7 月	-	-	-	-	1	9	-	-	1	9
8 月	-	-	-	-	1	9	-	-	1	9
9 月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10 月	-	-	-	-	1	15	-	-	1	15
11 月	-	-	1	30	-	-	-	-	1	30
12 月	-	-	-	-	1	2	-	-	1	2
1 月	-	-	2	260	-	-	-	-	2	260
2 月	-	-	1	190	1	8	1	14	3	212
3 月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	- (31)	- (3, 233)	4 (-)	480 (-)	5 (15)	43 (123)	3 (4)	19 (-)	12 (50)	542 (3, 356)

() は令和 3 年度の数

※ 1 Live 配信中の同時視聴者数。

※ 2 その他の内訳は患者搬送事業者向け新型コロナウイルス感染症に関する研修、普及啓発資料貸出及び防護服着脱訓練。資料貸出は回数のみ計上している。

表 12 公衆衛生セミナー実施内容

令和 4 年度

開催日	内容	担当
7/22	気をつけたい虫～ハチについて～	業務課
8/26	身の回りのダニ	生活環境部
10/28	感染症発生動向調査について～感染症の流行をつかもう～	疫学情報部
12/23	感染症対策の基本～手指衛生について～	微生物部
2/24	食品の放射性物質検査	食品部

エ 感染症対策・調査センターだより

感染症対策・調査センターの前身である生活衛生センターでは、広報誌「生活衛生センターだより」を作成していたが、新型コロナウイルス感染症対策業務への対応のため当該事業を中止していた。

令和 2 年より衛生研究所との合築に伴い感染症対策・調査センターへ改称し、新たに「感染症対策・調査センターだより」として No. 1～No. 3 を発行し、保健センター等を介して配布した。



感染症対策・調査センターだより

(2) 普及啓発物品の配布

新型コロナウイルス感染症に対する業務継続計画が発動されたことにより、普及啓発活動の実施が制限されたため、保健センターに対し市民への感染予防普及啓発活動の媒体として、マスクケース等の感染症予防普及啓発物品及び感染症対策・調査センターの業務紹介チラシを計1,220セット配布した。



マスクケース（展開図）

(3) 普及啓発資材の整備

普及啓発事業において間近に観察や体験ができるように、標本、パネルシアター、紙芝居、セアカゴケグモ啓発用のジオラマ等を改良した。また、普及啓発用資材を保育園に対し貸出を行う等広く活用した。さらに、スズメバチをはじめ、市内に生息する昆虫等を採集・飼育し、生きた昆虫等の展示を組み合わせる等工夫を図った。



樹脂標本

(4) 広報活動

名古屋市公式ウェブサイト内の衛生研究所業務課(感染症対策・調査センター)のページに、業務の紹介及び感染症媒介昆虫等の調査結果等を掲載した。その他、電子申請サービスを活用した衛生害虫と感染症の出張講座の申込受付を行った。

また、公衆衛生セミナーをYouTubeによるweb開催方式としたが、アーカイブをweb配信することで、当日セミナーに参加できなかった人でも、後から講習会の動画を視聴できるようにした。

Ⅲ 資 料 編

(令和 4 年度)

1 学会派遣、研究発表及び講師派遣等

(1) 学会派遣、研究発表、表彰

派 遣 先	講 演 内 容	派 遣 者
R4/11/28 愛知県 PCO 協会共催防除技術研修会 (名古屋港湾会館)	感染症対策・調査センターの業務紹介 とマダニ類生息状況調査について	田村 康二
R5/2/9～10 第 55 回ペストコントロールフォーラム 長野大会 (参加) (ホテルメトロポリタン長野)		曾我 俊之

(2) 講師派遣

派 遣 先	講 演 内 容	派 遣 者
R5/1/10 救急課程第 32 期救急隊員養成講義 「感染防止と消毒」 (名古屋市消防学校)	感染症の基礎知識・感染症法・予防方 法・消毒法・手指衛生の重要性	和田 美智代

(3) 感染症合同訓練

実施なし。

(4) 体験学習、学生実習等

実施なし。

(5) 報道協力

取材日	報 道 機 関	報 道 内 容
5/24	テレビ愛知	蚊について
5/26	株式会社ジャンプコーポレーション	スズメバチについて
6/2	CBC テレビ	蚊について
6/3	CBC テレビ	蚊について
6/7	CBC テレビ	蚊について
6/9	CBC テレビ	蚊について
6/13	CBC テレビ	蚊について
6/16	CBC テレビ	蚊について
8/17	テレビ愛知	蚊について
9/6	中京テレビ	スズメバチについて

2 広報指導用資料一覧表

令和4年度

パネル	書籍
〈ネズミ〉 ネズミ駆除 ネズミのふえ方 毒エサの作り方 ネズミと人の知恵くらべ 〈ゴキブリ〉 たくましい生活力 〈ダニ〉 ダニはどこにいるだに？ ダニはここにいるだに！ 〈ハチ〉 ハチに刺されないために コガタスズメバチの生活史 スズメバチの営巣場所 もしハチに刺されたら クマバチの巣をさがそう スズメバチを巡る食物連鎖 ヤブガラシに集まるハチ ハチの巣はどこにあるっ巣？ ハチの巣はここにあるっ巣！ 〈ケムシ〉 りんぶんってなあに？？ 校庭の危険な虫～有毒ケムシ～ 〈カ〉 カはどれも同じなの（ヤブカ・イエカ比較） カはどうやって育つの カはどこで生まれるの 〈その他の衛生害虫〉 セアカゴケグモ アルゼンチンアリ トコジラミ（南京虫） 〈昆虫一般〉 アゲハチョウのなかま モンシロチョウのふしぎ ツマグロヒョウモンって知ってる？ 海を渡るチョウ アサギマダラ 名古屋のセミ調べ 朽ち木の中から冬の虫さがし 成虫で冬を越すバッタ バッタをさがそう 赤とんぼの名前調べ 鳴く虫の声を聞く 虫こぶ入門	樹液に集まる虫 テントウムシのを見つけ方 食べる食べられる虫たちのきびしい生活 名古屋のセミ セミのぬけがら調査結果@千種公園 クマゼミって増えてるの？ セミのオスとメス どこがちがう？ セミのぬけがら見分け方 生活と環境（2015年～） 公衆衛生（2015年～） 昆虫と自然（2016年7月～） 原色ペストコントロール図説 第Ⅰ集 原色ペストコントロール図説 第Ⅱ集 原色ペストコントロール図説 第Ⅲ集 原色ペストコントロール図説 第Ⅳ集 原色ペストコントロール図説 第Ⅴ集 原色日本昆虫生態図鑑Ⅰ カミキリ編 原色日本昆虫生態図鑑Ⅱ トンボ編 原色樹木病害虫図鑑 原色日本クモ類図鑑 原色日本甲虫図鑑Ⅰ～Ⅳ 原色日本蛾類幼虫図鑑 上・下 原色日本昆虫図鑑 上・下 原色日本蝶類生態図鑑Ⅰ～Ⅳ 日本原色カメムシ図鑑 日本原色アブラムシ図鑑 日本産ゴキブリ類 原色昆虫大図鑑Ⅰ～Ⅲ 学研生物図鑑 昆虫Ⅰ～Ⅲ 日本蜂類生態図鑑 日本ダニ類図鑑 ダニ類 原色図鑑 野外の毒虫と不快な虫 原色図鑑 衛生害虫と衣食住の害虫 日本産水生昆虫検索図説 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説 びっくり害虫図鑑 家屋害虫事典 日本のクモ 昆虫実験法 材料・実習編 昆虫実験法 研究編 日本産幼虫図鑑 蛾蝶記

ダニと新興再興感染症 ズーノーシスハンドブック アウトブレイクの危機管理 消毒薬テキスト新版 以上始め 約 500 冊	夏の思い出2 夏の虫カレンダー セミの一生 セミの抜け殻の絵とき検索 セミの世界一と日本一 トンボの抜け殻調べ 大きなトンボと小さなトンボ アカトンボの仲間 17年ゼミ ちいさい秋みつけた1 ちいさい秋みつけた2 秋の昆虫 秋のチョウ 鳴く虫の声を聞きに行こう！ バッタのオリンピック むしの冬越 どうしているのかな？1 どうしているのかな？2 かくれんぼ1 かくれんぼ2 屋外の害虫 家庭で見つかる虫たち 台所のおじやま虫 ゴキブリ 屋内の害虫 スズメバチの仲間 アシナガバチとその巣 千種区のチョウ1 千種区のチョウ2 千種区のトンボ1 千種区のトンボ2 東区のチョウ 東区のトンボ 北区のチョウ 北区のトンボ 西区のチョウ 西区のトンボ 中村区のチョウ 中村区のトンボ 中区のチョウ 中区のトンボ 昭和区のチョウ 昭和区のトンボ 瑞穂区のチョウ 瑞穂区のトンボ 熱田区のチョウ 熱田区のトンボ
C D - R O M	
原色ペストコントロール図説 第Ⅰ集 原色ペストコントロール図説 第Ⅱ集 原色ペストコントロール図説 第Ⅲ集 害虫スライド集	
標 本 等	
〈標本箱〉 もりにいるおじやまむし だいどころにいるおじやまむし いえのちかくのおじやまむし おへやにいるおじやまむし セアカゴケグモにきをつけて アシナガバチとスズメバチ ハチの巣のアパートの住民たち 巣の中を見てみよう2 名古屋のスズメバチ2 テントウムシの仲間 形と役目はさまざま 昆虫の体の仕組み 形と役目はさまざま 昆虫の口 形と役目はさまざま 昆虫の翅 形と役目はさまざま 昆虫の脚 水生昆虫の一生 池にすむ虫たち 水辺の虫探し 小さな池にも… 大きな池をのぞいたら ヤママユのなかま タンポポにやってくる虫たち ヤブガラシに集まる昆虫 チョウのパレード チョウの来る校庭 ツマグロヒョウモン チョウと食草1 チョウと食草2 チョウと食草3 森のレストラン 森のレストラン 樹液のレストランの昼と夜 樹液のレストラン (昼) 樹液のレストラン (夜) 夏の思い出1	

中川区のチョウ 中川区のトンボ 港区のチョウ 港区のトンボ 南区のチョウ 南区のトンボ 守山区のチョウ 1 守山区のチョウ 2 守山区のトンボ 1 守山区のトンボ 2 緑区のチョウ 1 緑区のチョウ 2 緑区のトンボ 1 緑区のトンボ 2 名東区のチョウ 1 名東区のチョウ 2 名東区のトンボ 1 名東区のトンボ 2 天白区のチョウ 1 天白区のチョウ 2 天白区のトンボ 1 天白区のトンボ 2 アゲハチョウ科 シロチョウ、シジミチョウ科 マダラ、テング、タテハチョウ科 ジャノメ、セセリチョウ科 名古屋のチョウ 1 名古屋のチョウ 2 名古屋から姿を消したチョウ 名古屋のトンボ イト、アオイト、モノサシトンボ科 1 エゾトンボ、トンボ科 1 カワ、サナエトンボ科 ヤンマ、オニヤンマ科 トンボ科 2 池や小川で見られるトンボ 水辺の親子 歌っているのはだれ？ あつ、飛んだ 春になれば 虫の冬越し 街で見かけるセミと抜け殻 カブトムシの 1 年 アゲハチョウの仲間 1 キシタアゲハの仲間 1 タテハチョウの仲間 2	ドクチョウの仲間 トリバネチョウの仲間 2 ワモンチョウの仲間、ジャノメチョウの仲間 地球温暖化と昆虫 名古屋市版レッドデータブックの昆虫 1 名古屋市版レッドデータブックの昆虫 2 外国のチョウ 2 〈実物〉 キイロスズメバチの巣 コガタスズメバチの巣 モンズズメバチの巣 オオスズメバチの巣 〈樹脂標本〉 トンボ目 チョウ目 ハチ目 バッタ目 カマキリ目 ゴキブリ目 コウチュウ目 カメムシ目 以上始め 樹脂標本 約 142 種、239 個 その他 セアカゴケグモのジオラマ
--	---

3 フィールドレポート

(1) 蚊生息状況調査結果

表1 市内2地点※1（週1回各地点4か所）における8分間人囀法調査結果（捕集数計）

調査日 種別		4 月				5 月				6 月				
		7 日	14 日	21 日	28 日	6 日	12 日	19 日	26 日	2 日	9 日	16 日	23 日	30 日
ヒトスジ シマカ	♂	-	3	1	5	-	7	8	-	18	6	11	15	26
	♀	-	1	1	6	3	11	13	1	35	26	17	39	71
アカイエ カ群	♂	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	♀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
その他	♂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	♀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

調査日 種別		7 月				8 月				9 月				
		7 日	14 日	21 日	28 日	4 日	12 日	18 日	25 日	1 日	8 日 9 日	15 日	22 日	29 日
ヒトスジ シマカ	♂	19	11	17	7	16	3	22	19	10	4	-	8	18
	♀	48	45	54	40	67	28	72	58	73	49	9	60	54
アカイエ カ群	♂	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	♀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	♂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	♀	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

調査日 種別		10 月				11 月				計
		6 日	13 日	20 日	27 日	2 日	10 日	17 日	24 日	
ヒトスジ シマカ	♂	1	22	-	-	10	-	-	-	287
	♀	14	64	15	-	39	3	-	2	1,018
アカイエ カ群	♂	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	♀	-	-	-	-	-	-	-	-	1
その他	♂	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	♀	-	1	-	-	-	-	-	-	2

※1 土古公園（港区）、東山公園テニスセンター（天白区）

表2 市内1地点※2におけるオビトラップ（5個）による産卵調査結果

回収日	4月					5月					6月				
	1日	8日	15日	22日	28日	6日	13日	20日	27日	3日	9日	17日	24日		
卵	-	-	-	-	-	-	56	1	104	183	46	85	18		
ふ化殻	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	63	86	4		
幼虫	-	-	-	-	-	-	-	-	19	16	200	307	250		
回収日	7月					8月					9月				
	1日	8日	15日	22日	29日	5日	12日	19日	26日	2日	9日	16日	22日	30日	
卵	85	69	143	202	218	134	223	71	105	96	178	429	30	91	
ふ化殻	65	102	19	18	53	33	54	62	27	13	5	5	1	-	
幼虫	244	565	96	107	153	173	124	264	237	86	72	4	-	3	
回収日	10月				11月				計						
	7日	14日	21日	28日	4日	11日	18日	25日							
卵	21	22	4	-	-	20	6	-	2,640						
ふ化殻	-	-	-	-	-	-	-	-	612						
幼虫	-	-	-	-	-	-	-	-	2,920						

※2 衛生研究所（守山区）

(2) マダニ生息状況調査結果

表 市内5地点（月1回実施）における30分間旗ざり法による調査結果

調査月 種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
タカサゴキラマダニ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ベルルスカクマダニ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
キチマダニ	18	8	6	15	255	70	38	46	44	28	32	37	597
タカサゴチマダニ	-	6	4	1	-	2	2	3	4	4	-	4	30
ヤマアラシチマダニ	4	7	16	6	12	5	-	-	-	-	-	-	50
フタトゲチマダニ	4	-	12	1	2	2	-	-	-	-	-	-	21
オオトゲチマダニ	4	1	2	-	-	-	1	1	3	-	-	1	13
アカコッコマダニ	35	26	1	-	-	-	-	55	229	133	99	116	694
その他	-	2	-	-	3	30	2	-	-	-	-	-	37
計	66	52	41	23	272	109	43	105	280	165	131	158	1,445

(3) スズメバチ生息状況調査結果

表1 季節変動調査結果※¹

表1. 季節変動調査結果										
種類※ ²	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計	
守山区	コガタ	3	5	23	21	14	30	14	2	112
	モン	4	5	1	3	4	29	2	－	48
	ヒメ	－	－	2	2	1	5	1	－	11
	オオ	7	6	3	18	15	99	14	－	162
	その他	－	－	1	－	－	1	－	6	8
	計	14	16	30	44	34	164	31	8	341
緑区	コガタ	－	15	136	96	13	59	52	3	374
	モン	3	8	22	44	98	213	68	－	456
	ヒメ	－	1	27	11	8	110	38	－	195
	オオ	1	43	32	64	230	440	161	26	997
	その他	－	2	1	－	－	－	－	1	4
	計	4	69	218	215	349	822	319	30	2,026
名東区	コガタ	－	－	19	18	24	21	19	1	102
	モン	1	3	5	11	8	7	4	－	39
	ヒメ	－	－	3	－	－	7	1	－	11
	オオ	－	5	10	15	45	261	105	17	458
	その他	－	－	－	－	1	1	1	－	3
	計	1	8	37	44	78	297	130	18	613

※¹ 誘引液を入れたファネルトラップを2個設置し毎週生息状況を調査

※² コガタはコガタスズメバチ、モンはモンスズメバチ、ヒメはヒメスズメバチ、オオはオオスズメバチ。

その他の内訳は、キイロスズメバチ、チャイロスズメバチ及びクロスズメバチ

表2 分布調査結果※³

種類※ ⁴	コガタ	モン	ヒメ	オオ	キイロ	計
千種区	5	92	1	61	2	161
北区	69	59	4	27	-	159
西区	55	24	7	8	-	94
中村区	4	-	5	1	-	10
中区	39	4	5	-	-	48
昭和区	90	16	3	20	-	129
熱田区	2	1	-	10	3	16
中川区	7	1	4	1	-	13
港区	90	-	7	21	-	118
南区	21	1	2	1	-	25
守山区	37	3	7	86	-	133
天白区	10	29	9	178	-	226
計	429	230	54	414	5	1,132

※³ 誘引液を入れたファネルトラップを2個設置し2週間生息状況を調査(8~9月)

※⁴ コガタはコガタスズメバチ、モンはモンスズメバチ、ヒメはヒメスズメバチ、オオはオオスズメバチ、キイロはキイロスズメバチ

表3 市内2地点(計8回実施)における越冬スズメバチ調査結果

種類	コガタスズメバチ	オオスズメバチ	計
緑区	29	2	31
名東区	11	-	11
計	40	2	42

4 調査研究結果

(1) 蚊生息状況調査

ア 目的

地球温暖化による都市の亜熱帯化及び都市部における観光等による海外との往来増加により、デング熱等の蚊媒介感染症の国内流行の発生リスクが増大している。そのため、生息する媒介蚊の生息状況を把握することは蚊媒介感染症の対策を講じる上で重要である。

名古屋市においては、蚊媒介感染症発生リスクの評価等により市内の調査地点を選定し、蚊の生息調査とウイルス検査を実施しているが、2026年（令和8年）に開催される愛知・名古屋アジア競技大会の際に、多数の外国人が訪名することが予想されるため、発生リスクが増大することが懸念される。そこで本調査では、選手村予定地の近隣公園及び競技予定会場において媒介蚊成虫調査を実施した。また、市内の蚊産卵行動の季節変動を把握するため、定点において蚊産卵調査も実施した。

イ 調査方法

(ア) 蚊成虫調査 8分間人囔法（図1）

調査員が各調査ポイントで8分間立っている間に吸血飛来する成虫蚊を捕集し計数した。



図1 8分間人囔法

(イ) 蚊産卵調査 オビトラップ（図2）

調査地点にオビトラップ（5個）を設置し、1週間後に回収された蚊の卵及び幼虫を計数した。



図2 オビトラップ

ウ 調査地点及び調査期間

(ア) 蚊成虫調査 8分間人囔法

市内の選手村予定地の近隣公園および競技予定会場の2地点（以下、地点A、Bとする）を調査地点とし、各地点につき4か所の調査ポイントを定めた。

令和4年4月から11月を調査期間とし、週1回午前の時間帯に調査を実施した（雨天の場合は延期）。

(イ) 蚊産卵調査 オビトラップ

令和4年4月から11月を調査期間とし、衛生研究所（名古屋市守山区）の敷地内で調査を実施した。

エ 結果

(ア) 蚊成虫調査 8分間人囔法

捕集した成虫蚊はほぼヒトスジシマカで、地点Aではメスが計771頭、オスが計220頭、地点Bではメスが計247頭、オスが計67頭であった。オスは吸血飛来しないがメスの近くを飛んでいる個体が捕集される。地点Aは地点Bと比較して3倍以上ヒトスジシマカのメスが捕集された。その他の蚊としては、地点Aにおいてアカイエカ群のメスが1頭とオスが2頭、カラツイエカのメスが1頭、コガタアカイエカのメスが1頭捕集されたのみであった。

ヒトスジシマカのメスの月ごとの週 1 回あたりの平均捕集数（4 か所合計）を図 3 に示す。地点 A では 4 月の第 2 週から 11 月の最終週までヒトスジシマカのメスが捕集されたが、地点 B では 4 月の第 4 週に初めて捕集され、10 月の第 4 週以降は 1 頭のみ捕集された。また、地点 A では 6 月に平均捕集数は増大し 8 月にピークを迎えた（42.0 頭/週）後は経時的に減少していったが、地点 B では 7 月に平均捕集数が増加した後は 9 月までほぼ横ばいの傾向がみられ、10 月以降は平均捕集数が著しく減少した。

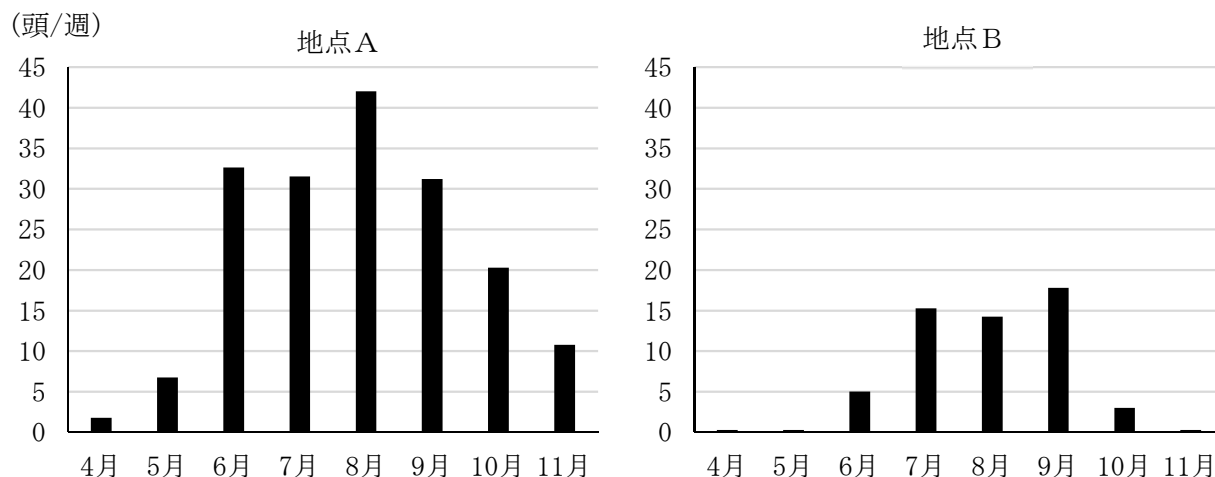


図 3 人囀法によるヒトスジシマカ（メス）の平均捕集数（週 1 回あたり、4 か所合計）

(イ) 蚊産卵調査 オビトラップ

5 月の第 2 週から卵が捕集され始め、5 月の第 4 週に幼虫が初めて捕集された。10 月以降幼虫は捕集されなくなったが、卵は 11 月の第 3 週まで捕集された。月ごとの 1 週分の平均捕集数（トラップ 1 個あたり）を図 4 に示す。6 月になると卵・幼虫とも捕集数は増大し、7 月に卵・幼虫の平均捕集数の合計は最大になった（1 週あたり卵 28.7 個、幼虫 46.6 頭）。6 月から 8 月では幼虫の平均捕集数が卵より上回ったが、9 月には幼虫の平均捕集数が顕著に減少した。9 月は卵の平均捕集数が最大になってはいるが、卵と幼虫の合計捕集数では 8 月より減少している。そして、10 月以降は捕集数が顕著に減少した。

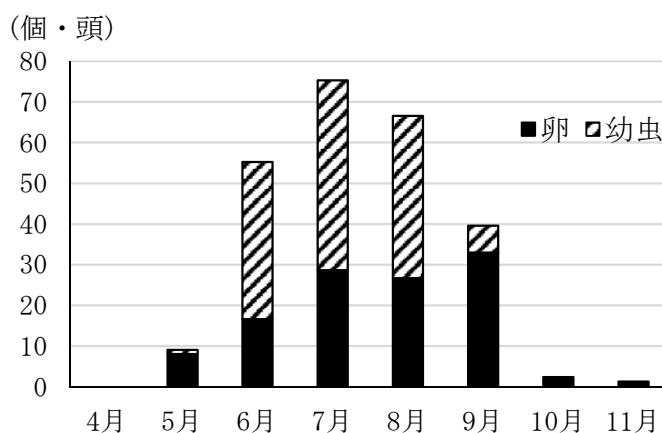


図 4 オビトラップによる卵と幼虫の平均捕集数（1 週・1 トラップあたり）

オ 考察

ヒトスジシマカのメスの吸血行動は待ち伏せ型と言われ、潜伏場所に吸血対象が 5m 程の距離に近づくと吸血のため飛来すると言われている。また、ヒトスジシマカのメスは、樹洞や岩の窪みなどの自然の器や屋外にある花立てや水がめなどの人工容器など、それほど広さを要しない水溜まりに産卵する習性がある。今回人囀法の調査を実施した地点 A と地点 B におけるヒトスジシマカの捕集数（生息密度）の差は、潜伏場所の多さや産卵場所（発生源）の数に起因すると考えられる。地点 A においては、敷地内に公園とは区画された事務所跡地があり、今回調査を実施するにあたりそこでフタがされていない水のたまった状態の大小 2 つのタンクを発見した。また、その跡地内には生い茂った竹藪もあり、多くの成虫蚊が確認

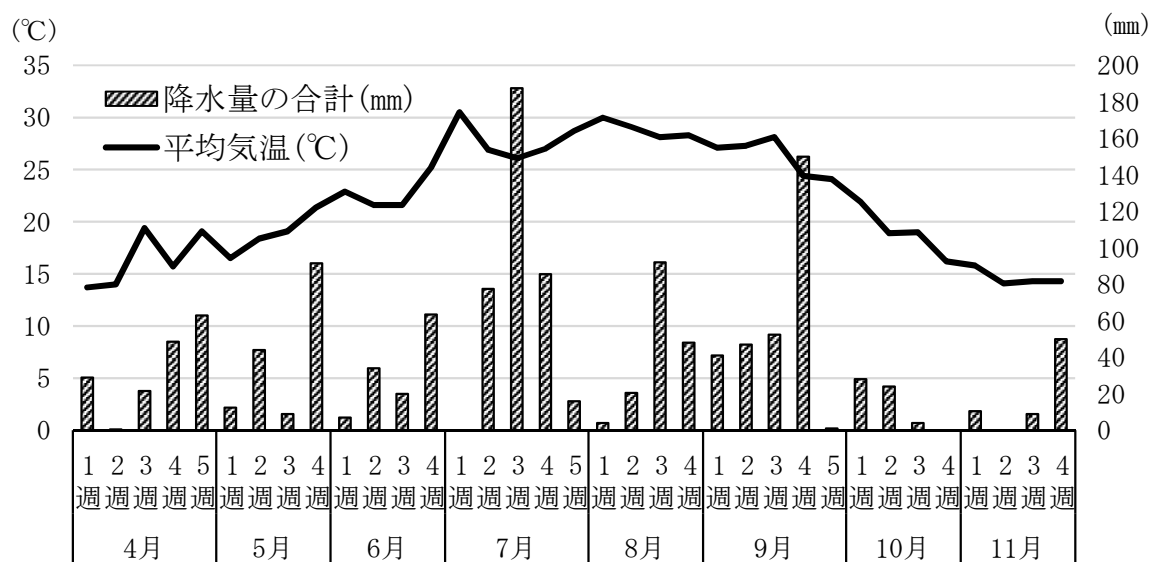


図5 令和4年の名古屋の平均気温および降水量（週別）（参考）

気象庁観測データより引用した。週ごとの集計期間はオビトラップの調査期間に合わせてデータを作成した。

された（6月第1週調査時）。これらのことが地点Aにおける成虫蚊の生息密度の増大に影響を与えることは言うまでもなく、蚊の防除のための日常的ないしは定期的な管理は必要であろう。今回のタンク・竹藪については管理担当者に早急に別途報告・助言したが、今回調査を行った公園以外のところでも蚊の防除が適切に行われるよう管理部署等に適宜助言・指導することが重要であると考え。なお、今回8分間人囀法を実施した調査ポイントは、周囲に下草や植栽があるような、成虫蚊が潜伏しやすい場所を選定したが、調査ポイントで捕集数に差があった。成虫蚊の生息密度を周囲の周辺環境などから予測する、より確度の高い選定方法を今後も検討していきたい。

オビトラップの結果において、5月では卵が幼虫より多く捕集されたが、6月には幼虫が卵よりも多数捕集されるようになった。トラップ設置期間は1週間と同じであることから、卵が孵化しやすくなったと考えられる。一方で、9月に入ると幼虫の捕集数が顕著に減少し、卵が孵化しにくくなっていた。卵の孵化には気温と水分が影響するといわれているため、環境条件の参考として、平均気温及び降水量の気象庁観測データを図5に示す。これによると、幼虫が卵より多い6月よりも、卵が幼虫より多い9月の方が平均気温が高く、降水量も多かったことから、これらの影響は大きくないと考えられる。また、実験的に短日で飼育された成虫蚊が産卵した卵は孵化しにくくなることが報告されているが、令和4年9月の日照時間合計が6月のそれよりも短かったこと（名古屋の日照時間〔月ごとの合計〕：6月 203.8時間、9月 163.8時間＜気象庁観測データより＞）から、日照時間が大きく影響した要因のひとつと考えられる。これは、日照時間が短くなっていく9月以降に産卵された卵の多くがふ化しにくい越冬卵に移行していくためと考えられる。

令和元年末より世界中に蔓延した新型コロナウイルス感染症により外国人観光客の来日が激減したが、ワクチンや治療薬の開発、感染症法での5類への移行等により出入国の制限は緩和され、インバウンドの回復も見え始めている。アジア競技大会において蚊媒介感染症が蔓延している東アジアや東南アジアからも多数の選手や大会関係者が訪日する見込みであることから、市内での蚊媒介感染症の発生リスクの増大は否めないため、引き続きアジア競技大会の関連施設においてモニタリング調査を実施し、蚊媒介感染症対策の一助としていきたい。

(2) マダニ生息状況調査

ア 目的

マダニは感染症法上の四類感染症である日本紅斑熱（JSF）や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を媒介するとされており、本市ではマダニの生息状況調査を平成 25 年から毎年実施している。令和 3 年は全国で JSF が 490 名、SFTS が 110 名の患者がそれぞれ報告されており、5 年前（平成 28 年：JSF 273 名、SFTS 59 名）に比べ 2 倍近い数に増加している。また、令和 3 年には愛知県内で初の SFTS 患者が発生した。そのため、本市においてもそのベクターレベルを監視するためにマダニの生息状況を把握しておく必要があることから、引き続き、本調査を実施した。

イ 調査地点及び調査期間

調査地点は、市内東部丘陵地域の公園等から 5 地点（以下、地点 A、地点 B、地点 C、地点 D 及び地点 E とする。）を選定した。

調査期間は、令和 4 年 4 月から令和 5 年 3 月までとし、1 地点につき、毎月 1 回調査を行った。

ウ 調査方法

白いフランネル布を植生や落ち葉等の上を引きずる旗ざり法を用いて、調査員 3 名で 30 分間行った（図 1）。捕獲したマダニは冷凍後、顕微鏡下で形態学的手法により種類及び発育ステージ（成虫、若虫及び幼虫）の同定を行った。なお、調査を行うにあたり、手袋（軍手）や長靴の着用、袖口や足下へ虫除けスプレーを塗布する等の刺咬被害防止対策を実施した。



図 1 旗ざり法

エ 調査結果及び考察

(ア) 調査地点ごとのマダニ捕獲数及び種類について

令和 4 年 4 月から令和 5 年 3 月までの計 60 回の調査で 4 属 8 種の計 1,445 頭捕獲した。発育ステージの内訳は、成虫 212 頭、若虫 311 頭、幼虫 922 頭であった。捕獲マダニ種の割合はアカコッコマダニが最も多く、次にキチマダニ、ヤマアラシチマダニの順であった。マダニの生息数及びマダニ相は宿主となる野生生物の生息状況の影響を受けるため、調査地点ごとにマダニの捕獲数及び種類に違いが見られた（表）。

地点 A では、キチマダニ、タカサゴチマダニ、ヤマアラシチマダニ、オオトゲチマダニ及びアカコッコマダニの 2 属 5 種が捕獲された。成虫・若虫・幼虫すべての発育ステージの捕獲数を合計して最も多かったマダニ種（以下、「優占種」という。）は、主に鳥類を宿主としており人への嗜好性は強くないアカコッコマダニであったが、成虫のみで捕獲数が最も多かったマダニ種（以下、「成虫優占種」という。）は、人嗜好性が有り JSF 及び SFTS を媒介するといわれているキチマダニであった。当地点は、市内でも規模が大きく樹林域も広がっている公園であるが、市街中心部に比較的近く野生生物の生息及び種類数は多くないため、マダニの生息数及びマダニ相としては豊かでないと考えられる。

地点 B では、地点別で最も多く、タカサゴキラマダニ、ベルルスカクマダニ、キチマダニ、タカサゴチマダニ、ヤマアラシチマダニ、フタトゲチマダニ、オオトゲチマダニ及びアカコッコマダニの 4 属 8 種が捕獲された。優占種はキチマダニであったが、成虫優占種は JSF を媒介するといわれているヤマアラシチマダニで、他地点に比べても多くの個体が捕獲された。また、人嗜好性が強く SFTS を媒介するといわれているタカサゴキラマダニや JSF を媒介するといわれているベルルスカクマダニも唯一捕獲された。市外の山林との連続性が保たれている当地点はイノシシ等の生息も確認されており大型哺乳類を含む野生動物の生息エリアとなっていることから、マダニ相としても非常に豊かなものになっていることが確認された。なお、ベルルスカクマダニは当センターのマダニ生息調査で初めて捕獲された。

表 調査地点別のマダニ捕獲数

地点	調査回数	捕 獲 種									捕獲数
		タカサゴ ラマダニ	ベルルス カクマダニ	キチマ ダニ	タカサゴ チマダニ	ヤマアラシ チマダニ	フタトゲ チマダニ	オオトゲ チマダニ	アカコッコ マダニ	その他	
A	12	－	－	14 (7)	3 (2)	2 (2)	－	4 (－)	45 (4)	－	68 (15)
B	12	2 (2)	1 (1)	228 (34)	25 (5)	44 (39)	2 (2)	1 (－)	46 (2)	34 (－)	383 (85)
C	12	－	－	22 (12)	1 (1)	－	－	3 (1)	567 (14)	－	593 (28)
D	12	－	－	327 (60)	－	2 (1)	19 (12)	2 (－)	31 (1)	3 (－)	384 (74)
E	12	－	－	6 (6)	1 (1)	2 (2)	－	3 (1)	5 (－)	－	17 (10)
合計	60	2 (2)	1 (1)	597 (119)	30 (9)	50 (44)	21 (14)	13 (2)	694 (21)	37 (－)	1, 445 (212)

() : 成虫の捕獲数の再掲

地点 C では、キチマダニ、タカサゴチマダニ、オオトゲチマダニ及びアカコッコマダニの 2 属 4 種が捕獲された。優占種及び成虫優占種となったアカコッコマダニの捕獲数が他地点に比べ非常に多く、マダニ全体の捕獲数は最も多くなった。当地点は、規模の大きい公園で樹林が広がっており、多種の野鳥の生息域になっていることが鳥類を宿主とするアカコッコマダニの捕獲数を押し上げたものと考えられる。他方で、ほ乳類の生息は少ないため、マダニの捕獲種類は最も少なく、マダニ相としては豊かではないことがわかった。

地点 D では、キチマダニ、ヤマアラシチマダニ、フタトゲチマダニ、オオトゲチマダニ及びアカコッコマダニの 2 属 5 種が捕獲された。優占種及び成虫優占種となったキチマダニ並びに人嗜好性が強く JSF 及び SFTS を媒介するといわれているフタトゲチマダニが全地点の中で最も多く捕獲された。当地点では、毎年フタトゲチマダニが多数捕獲されていることや今年度は幼虫・若虫・成虫のすべての生育ステージで捕獲されていることからフタトゲチマダニの経年の発育環が出来上がっていると考えられる。当地点は中規模の公園であるが、タヌキやネコ等の中型ほ乳類の生息が確認されており、その影響でフタトゲチマダニ及びキチマダニが他地点に比べ多数捕獲されるものと考えられる。

地点 E では、キチマダニ、タカサゴチマダニ、ヤマアラシチマダニ、オオトゲチマダニ及びアカコッコマダニの 2 属 5 種が捕獲された。優占種及び成虫優占種はキチマダニであった。捕獲種類は少なくはなかったが、捕獲数は全地点の中で最も少なかった。また、他地点に比べ、捕獲割合は成虫が高く、幼虫・若虫が少ないという発育ステージのいびつさが見られたことから、当地点は比較的規模の大きい雑木林であるが宿主となる野生動物の生息が少なく、マダニの発育環が成立しにくい環境にあると考えられる。

(イ) 月別のマダニ捕獲数及び種類について

令和 4 年度の月別のマダニ捕獲数を示した (図 2)。キチマダニは全調査期間で捕獲された。ヤマアラシチマダニ及びフタトゲチマダニは夏季を主にして 4 月から 9 月にかけて捕獲された。アカコッコマダニは春季・冬季を中心に捕獲され、7 月から 10 月には捕獲されなかった。全体の捕獲数は 8 月及び 12 月に多くなったが、いずれも幼虫が大量に捕獲されたため、8 月はキチマダニ、12 月はアカコッコマダニの幼虫の集団捕獲が影響している。

次に、令和 4 年度の月別のマダニの捕獲数を成虫のみで示した (図 3)。キチマダニは 7 月以外の全期間で捕獲され、秋から春季に多数捕獲される傾向にあった。ヤマアラシチマダニは夏季を中心に捕獲され、フタトゲチマダニは 6 月を中心に捕獲された。オオトゲチマダニは 12 月にのみ捕獲されたが、当センターの調査では 3 年ぶりの成虫の捕獲であった。オオトゲチマダニは大型動物を中心に嗜好性があり SFTS も媒介するため注意を要する。

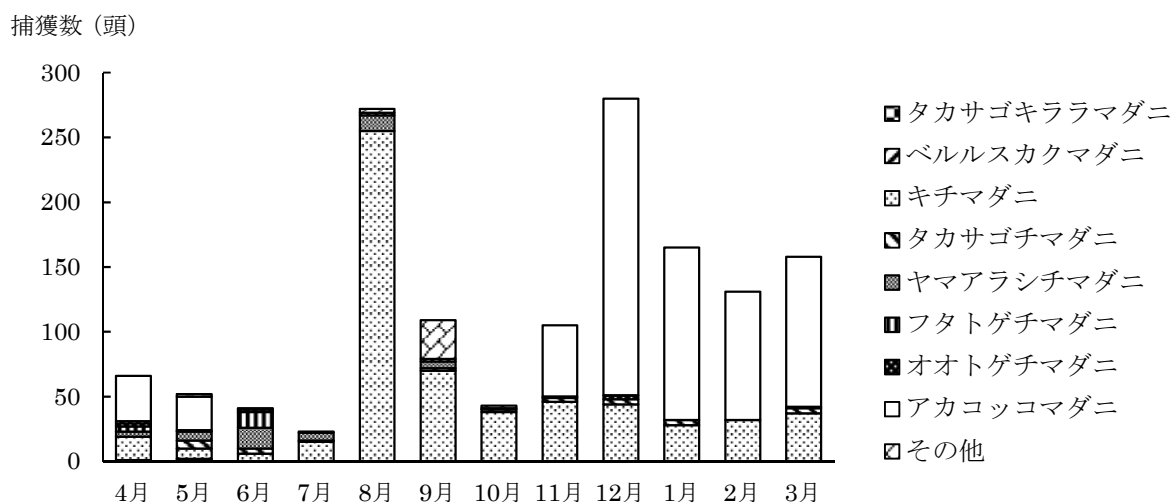


図2 令和4年度マダニの種別捕獲数（成虫・若虫・幼虫の合計）

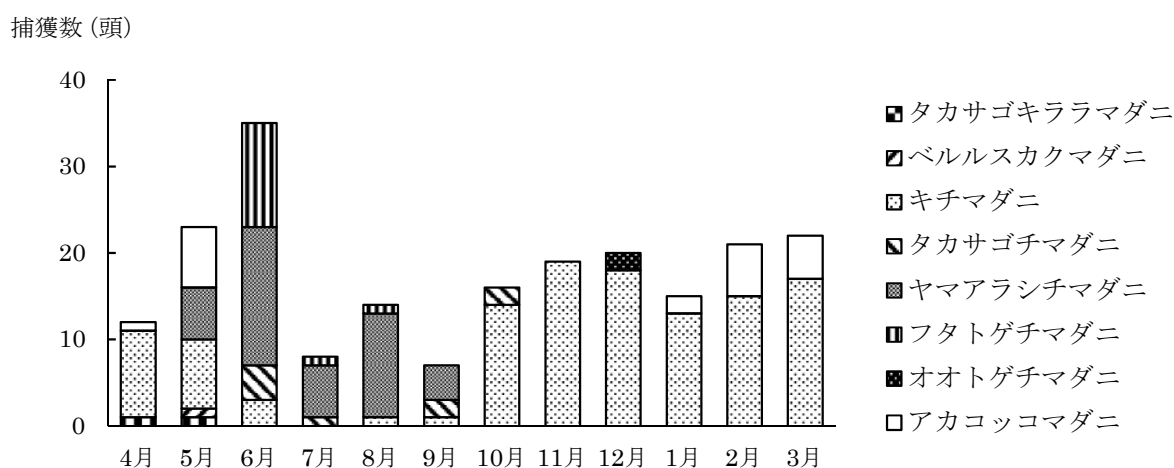


図3 令和4年度マダニの種別捕獲数（成虫のみ）

オ まとめ

全体として、市内ではアカコッコマダニ及びキチマダニが普遍種として生息していることがわかった。地点 B 以外の調査地点は樹木が広がる中規模以上の公園等ではあるものの周囲を住宅地等で囲まれており、野生動物の外部からの流入も限られるため、マダニ相としてはそれほど豊かではなかった。そのため、市内の多くの公園等でも同様の傾向にあると考えられる。しかしながら、地点 B の地点のように市外の山林や緑地とつながっている公園等の地域ではマダニ相も豊かで、JSF や SFTS を媒介するマダニも多種生息していることがわかった。また、野鳥や特定の野生動物が多く生息している公園等では、その生物を宿主としたマダニが増加することがわかった。

市内でもマダニは種によって季節性はみられるが毎月捕獲されており、マダニの刺咬被害は一年を通して警戒が必要であることがわかる。その中でも、春から夏にかけての時期は、人への嗜好性が強く JSF もしくは SFTS を媒介するマダニ（フタトゲチマダニ及びタカサゴキラマダニ）や人への嗜好性はそれほど強くはないものの JSF を媒介するマダニ（ヤマアラシチマダニ及びベルルスカクマダニ）が捕獲される傾向があり、肌を露出することが多くなる季節でもあることから、より一層の注意を要することがわかった。

なお、当センターの調査では、平成 28 年度にヤマアラシチマダニが、また、平成 29 年度にタカサゴキラマダニが初めて捕獲されているが、先に述べたように今年度の調査ではベルルスカクマダニが初めて捕獲されており、市内のマダニ相が年々豊かになっている若しくはマダニ相の解明が年々進んできていると思われる。

(3) スズメバチ生息状況調査

ア 目的

感染症対策・調査センターでは、スズメバチ類の刺傷被害防止対策に資するため、本市におけるスズメバチ類の発生動向を、4月から11月に市内計16地点で毎週調査してきた。しかし、令和2年度及び令和3年度においては、コロナ禍による業務縮小により多くの調査地点で調査中止を余儀なくされた。そして、令和4年度にコロナ禍の中、限られた人的資源の中で調査を再開するにあたり、調査のあり方について再検討することとした。その結果、長年の調査により捕獲数やそのカーストの季節変動については本市の傾向が分かっていたことから、ほとんどの調査地点においては、夏季に2週間トラップを設置することによるワーカーの分布調査に切り替えた。ただし、一部の調査地点については引き続き季節変動を調査した。令和4年度調査においては、その方法による調査結果を過去の調査結果と比較・検証し、今後のスズメバチ類捕獲調査の方針に資するよう分析を行うことを目的とした。

イ 調査期間及び調査地点

季節変動調査：令和4年4月から令和4年11月まで。2地点（緑区・名東区）。
分布調査：令和4年8月から令和4年9月まで。10地点（千種区・北区・西区・中区・熱田区・中川区・港区・南区・守山区・天白区）。

ウ 調査方法

誘引剤（発酵糖液（乳酸菌飲料：水＝6：4）600mL）入りのファネルトラップを、地上より2～3mの高さに各地点で2ヶ所ずつ、季節変動調査は1週間ごとに、分布調査は2週間のみ設置した。捕獲したハチは持ち帰り、種別及びカースト別に集計記録した。過去の調査結果比較には平成31年度及び平成30年度でトラップ設置場所に大きな変更が無かった地点を選定した。

名古屋市の地形は、東部の丘陵地、中央部の台地及び北・西・南部の沖積地の大きく3つに分けられそれぞれ異なる自然環境が形成されているが、中でも東部の丘陵地にはより豊かな自然環境が保全されている。スズメバチ相は種ごとの生息に適した自然環境に大きく影響を受けると考えられ、過去の調査結果を参考に、より豊かな自然環境である東部の丘陵地の調査地点（千種区・守山区・緑区・名東区・天白区）を「東部丘陵地」と、それ以外の調査地点（北区・西区・中区・熱田区・中川区・港区・南区）を「都市緑地」と分類し、分析に用いた。

なお、スズメバチの略称は、コガタスズメバチはコガタ、モンズズメバチはモン、ヒメスズメバチはヒメ、チャイロスズメバチはチャイロ、オオスズメバチはオオ、キイロスズメバチはキイロ、クロスズメバチはクロとする。

エ 結果および考察

(ア) 令和4年度季節変動調査と過去調査の比較

令和4年度季節変動調査2地点と平成31年度及び平成30年度の東部丘陵地5地点の4月から11月の結果について、種別で捕獲数の多いコガタとオオを、カースト別で女王バチと働きバチについて比較した。多少の増減はあるものの、1トラップあたりの捕獲数及びカースト別の比較でも例年と同じような季節変動を見せた（図1）。

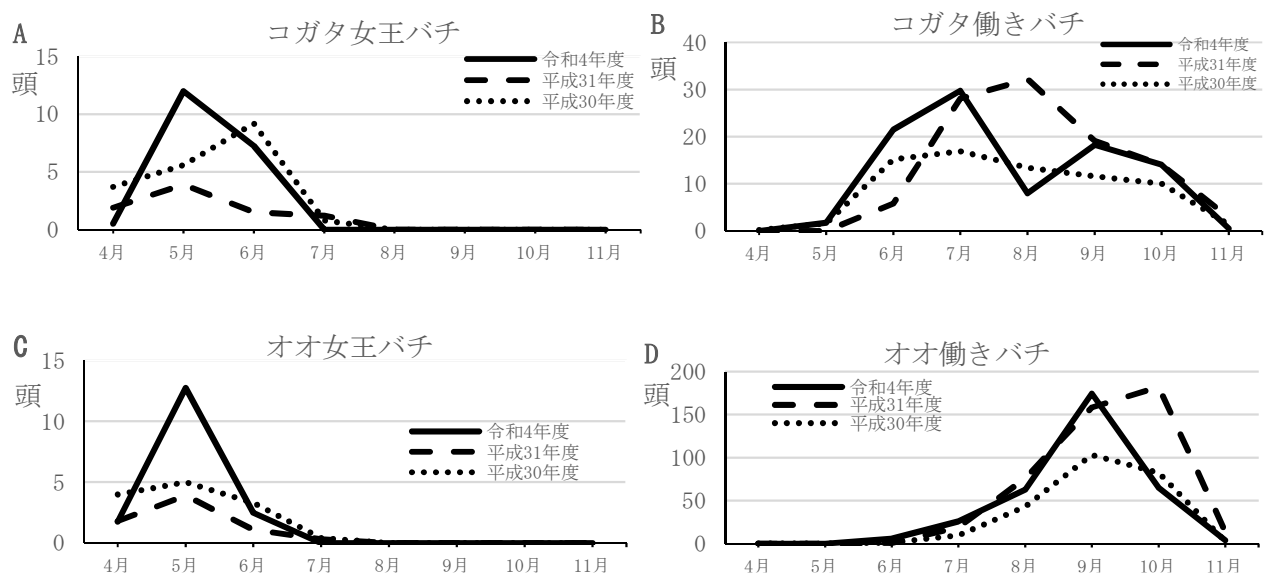


図1 東部丘陵地における1トラップあたりのコガタ女王バチ(A)・コガタ働きバチ(B)・オオ女王バチ(C)・オオ働きバチ(D)の捕獲数の季節変動

コガタの働きバチで令和4年度8月に捕獲数の減少が見られたが、この月の月降水量が例年より多く、かつ月間日照時間が少なかったためにスズメバチが天候に影響される生態であることから影響を受けたと考えられる。この月にオオで減少が見られなかったのは、東部丘陵地ではオオが優占種であるため、影響を受けにくかったと思われる。

(イ) 令和4年度分布調査と過去調査の比較

a 東部丘陵地(緑区・名東区を除く)

東部丘陵地のスズメバチ相は、例年オオが優占種で、次いでコガタである。オオは土中に営巣することなどから、より自然豊かな環境で生息しやすいと考えられる。令和4年度の2週間調査においても過去調査と同様のスズメバチ相がえられ、スズメバチ相の確認には2週間で十分である可能性が示された(表1)。令和4年度に千種区でモンが多数捕獲されたのは、トラップ設置場所に大きな変更は無かったが、トラップ付近にモンの営巣があった可能性が考えられる。

表1 東部丘陵地における1トラップあたりの捕獲数・捕獲割合

	千種区			守山区			天白区		
	R4	H31	H30	R4	H31	H30	R4	H31	H30
コガタ	3%	8%	10%	28%	16%	19%	4%	21%	22%
モン	57%	10%	20%	2%	5%	9%	13%	9%	9%
ヒメ	1%	0%	6%	5%	6%	10%	4%	8%	17%
チャイロ	0%	0%	13%	0%	0%	0%	0%	1%	1%
オオ	38%	80%	50%	65%	72%	61%	79%	60%	50%
キイロ	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
クロ	0%	1%	2%	0%	0%	0%	0%	1%	1%
総数	161	753	431	133	1773	1417	226	1780	1110

b 都市緑地

都市緑地のスズメバチ相は、例年コガタが優占種であることが多いが、オオとモンの方が多く採れる調査地点もある。調査地点ごとにおいて種別の捕獲数に差がでるのは、都市緑地ごとの自然環境の豊かさに差がある為と考えられる。令和4年度の2週間調査と過去調査と比較したところ、調査地点ごとの過去のスズメバチ相とおおむね同様の結果が得られたものの、熱田区では優占種が過去調査と異なる結果が得られた(表2)。これは、自然環境が変化したためというよりは、令和4年度調査ではスズメバチ相を把握するには十分な捕獲総数が得られなかった為と考えられる。

表2 都市緑地における1トラップあたりの捕獲数・捕獲割合

	北区			西区			中区			熱田区			中川区			港区			南区		
	R4	H31	H30	R4	H31	H30	R4	H31	H30	R4	H31	H30	R4	H31	H30	R4	H31	H30	R4	H31	H30
コガタ	43%	41%	17%	59%	41%	54%	81%	64%	60%	13%	58%	64%	54%	55%	53%	76%	64%	69%	84%	79%	60%
モン	37%	2%	12%	26%	21%	17%	8%	0%	4%	6%	2%	4%	8%	6%	15%	0%	3%	9%	4%	2%	3%
ヒメ	3%	14%	10%	7%	19%	18%	10%	3%	25%	0%	6%	9%	31%	10%	19%	6%	29%	17%	8%	12%	24%
チャイロ	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
オオ	17%	40%	61%	9%	11%	6%	0%	6%	10%	63%	34%	22%	8%	28%	9%	18%	5%	5%	4%	6%	6%
キイロ	0%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	19%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	1%	0%	0%	5%
クロ	0%	0%	0%	0%	8%	4%	0%	27%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
総数	159	422	686	94	295	330	48	94	52	16	132	201	13	210	75	118	310	239	25	201	141

オ まとめ

本調査の結果より、オオは東部丘陵地での営巣に適した種で、コガタは東部丘陵地でも都市緑地でも営巣可能な種であることが考えられた。また、各地点ごとのスズメバチ相は活動が最盛期をむかえる8月～9月の2週間の短期間でも傾向は把握できると考えられたが、捕獲総数が少ない場合には正確性を欠く可能性が生じることに注意が必要である。

名古屋市保健所
感染症対策・調査センターの活動（業務課）（令和4年度）

発 行 〒463-8585

名古屋市守山区桜坂四丁目 207 番地

名古屋市保健所 感染症対策・調査センター

TEL 052-737-3712 / FAX 052-736-1102

編 集 感染症対策・調査センター 事業係

発 行 日 令和5年10月

発行部数 200 部

印 刷 社会福祉法人名古屋ライトハウス 明和寮
（年刊・無料・特定配布）

この冊子は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。